

## 待降節第一主日

2019.12.1

第一朗読 イザヤ 2・1-5

第二朗読 ローマ 13・11-14a

福音朗読 マタイ 24・37-44

ヨゼフ・アベイヤ司教（大阪教区補佐司教）

ローマ帝国の領土に広がっていた初代教会の小さな共同体は、いろいろな困難にぶつかっていたわけです。厳しい迫害を受けていたし、殉教者は非常に多かったわけです。彼らは福音を聞いて、心の平安を求めて、そして希望を求めてその共同体に加わったけれども、実際に出会ったのは迫害、そういう厳しい状況です。その中で、彼らはいつイエズス様が来臨するのか、いつ来るのか、ということはずっと考えていたわけです。彼らは本当にイエズス様がまた来られることを、どれだけ心から切に望んでいたかということはわたしたちは想像できるわけです。そして、その人たちにパウロは、今日の第二朗読であったように、「救いのときが近づいた、だから目を覚ましていなさい」と、そして、「古い行いを捨てて、キリストに従って生きて行ってください」と、勧めているわけです。ただ、それを聞いた彼らは、なかなかそのイエズス様来ない、ずっとこの迫害に耐えていかなければならないということは、毎日の生活の中で感じていたわけです。そういう人々にパウロは、心の中で平安を味わって、希望をもって生きていくすべを教えているわけです。「闇の行いを脱ぎ捨てて、キリストを身にまといなさい」とパウロは言っています。「キリストが来ることを待ち望みながら、今この時に具体的な生活の中で、キリストに示された道を行って行ってくださいよ。あとは天の父に任せてください。それによって、あなたがたが求めている心の平安とその喜び、希望が与えられるはずです」とパウロは言っている。

今日の福音書で伝えられているイエズス様のことばを聞きますと、同じことです。このイエズス様の話は、もっと長い話の一部なのです。そして、そのイエズス様のこの長い話は、一つの弟子たちの質問に答えている話です。だから、その質問を頭に入れてその話を聞かないと、どうしてイエズス様がこんなことをおっしゃっているかということはよくわからない。その質問はこうです。イエズス様が世の終わり、終末について話したときに、弟子たちは、「先生、それがいつ起こるのですか。どのように起こるのですか」と聞いたのです。イエズス様がそれについて語っているのです。そして、今日のことばもその中の一部です。だから、いつ来るか心配するな。あなたがたにとって大事なものは、今日、

この日にあなたが置かれている場所で、わたしがあなたたちに見せた、示した道を歩み続けていくこと」とイエス様が言われます。その道を歩み続けていけば、心配するな。本当にあなたがたが求めている心の平安、また、それに伴う希望と喜びを心の中で深く味わうはずです。あとのことは、あなたがたを毎日支え、毎日祝福してくださっている天の父に任せなさい、とイエズスは語っています。特に今日、わたしたちはこのメッセージを心に留めておかなければならないと思います。

実際に、旧約聖書もそうだったのですよ。第一朗読はイザヤの預言の2章。そこで彼らが待っていた夢、彼らが持っていた現実が語られているわけなのです。それはどういうことかということ、みんなが共に神の山に登って、神に会い神様に触れたいのです。そして、それによって何が起こるかということ、「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。もはや戦うことを学ばない」。こういう状況をみんな心の深いところで待っているわけなのです。そして一日も早くそれが訪れて欲しいという希望を持っているわけなのです。それは、神様が約束してくださっている状況なのです。ただわたしたちは毎日の生活の中でそれに向かって歩み続けていきます。

では、イエズス様の時から2千年後を生きているわたしたちは、イザヤの時から2700年たった時を生きているわたしたちは、本当に何を待っているのでしょうか？ どういう希望を持って毎日生きているのでしょうか。今日から待降節が始まりました。待降節の中心は「待つ」ということなのです。何を待っているのか。もちろんクリスマスを待っているのです。イエズス様の誕生を喜びのうちに祝いたいわけなのです。それは言うまでもないですね。きっとそろそろ教会の準備も始まるだろうと思います。馬小屋を作ったりするでしょう。今日は待降節第一主日ですので、待降節のろうそくも飾ってあります。

しかし、もっと深いところで、わたしたちは何を待っているのでしょうか。わたしたちは待っていることによって心を動かされて、本当にわたしたちの生活を方向付けられているのでしょうか。これは待降節の基本的な問いかけなのです。何を待っているのか、心の奥深いところで。そして、自分だけのことでなく、もっと目を広げて、人類は何を待っているのか。どこに目を向けているのか。教皇様の来日のときに、教皇様がいろんな示唆を与えてくださったわけなのです。本当にわたしたちは心から何を待っているのか。そして、この希望がどのようにわたしたちの歩みを方向付けているかということは、とても大切なことなのです。

だから、待降節の間に、特にイザヤの預言のことばによって導かれて行きます。イザヤの預言のことばによって、わたしたちは自分の心に入っていきように導かれて、本当に心の一番奥底で何をわたしたちは希望しているのか。ちょ

つとした期待があるでしょうが、根本的に待っていることは何か。

あるいは、洗礼者ヨハネのことばに導かれて、わたしたちはいろんな要らない希望を捨てていくように呼びかけられ、心の底から待っていることに気づくように導かれます。

そして、待降節の中で最後に現れてくるのは、マリア様です。マリア様こそ、イエズスを待っていたわけなのです。わたしたちはマリア様と心を合わせて、本当にイエズスを待つ。そして、イエズスがもたらしてくださる神の国を待つ。そして、心からそれを待っているとすれば、その希望に動かされて、わたしたちは毎日を歩んで行くはずなのです。

今日、待降節第一日曜日です。本当にこのように、こういうような心で待降節の歩みを始めることができるように、心から祈りたいと思います。そうなったら、本当に意義深いクリスマスを迎えることができるに違いないと思います。